

復習シート ハイレベル生物① 8回目

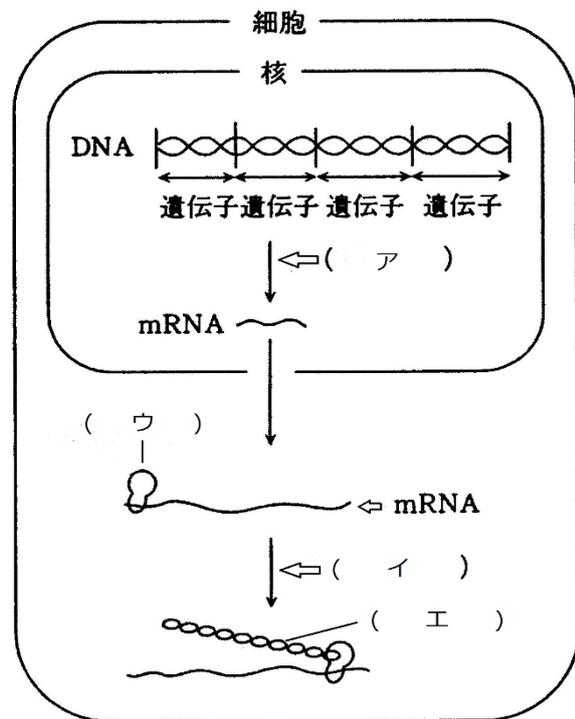
第40問 タンパク質の合成(プチ詳しい)

問 右下の図は細胞内におけるタンパク質の合成の様子を表している。これに関する次の文章中の空欄に(ア～オ)に適切な語句を入れよ。

遺伝子はタンパク質の設計図であるが、実際に設計図になっているのは、その遺伝子を構成するDNAの2本のポリヌクレオチドのうちのどちらかである。ここでタンパク質の設計図になっているポリヌクレオチドをセンス鎖、そうでない方をアンチセンス鎖という。タンパク質が合成される際は、まずそのタンパク質の設計図になっている部分がコピーされるが、この過程を(ア)という。2本のポリヌクレオチドはその内側で塩基どうしが相補的に

(オ)結合しているが、この結合が外され、アンチセンス鎖をもとにして、センス鎖のコピーができる。できたコピーはmRNAで、これが核の外へ出ていく。

核の外に出たmRNAに(ウ)が結合する。(ウ)はmRNAに書いてある設計図のとおり(エ)をつないでいくが、この過程を(イ)という。



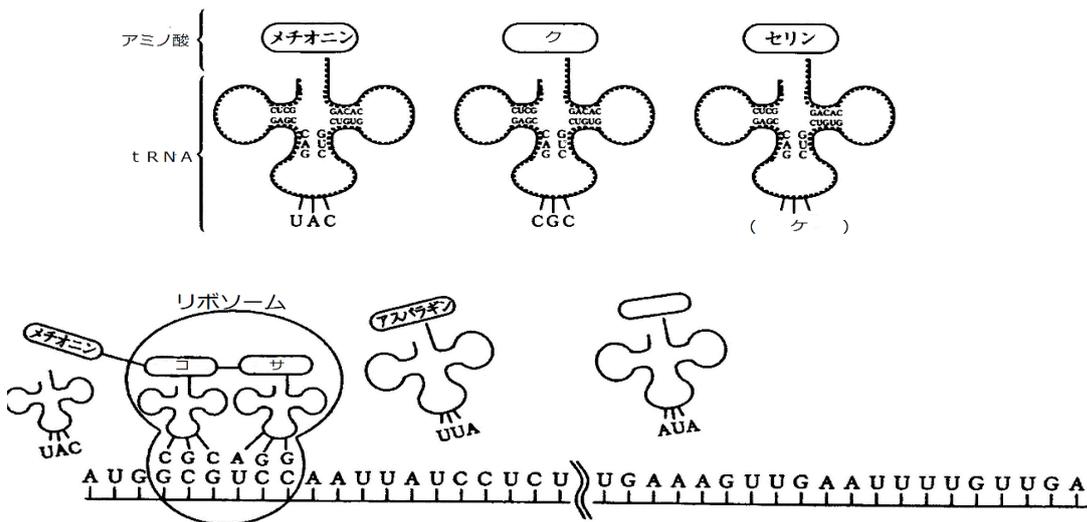
【解答】第40問 タンパク質の合成(プチ詳しい)

ア - 転写 イ - 翻訳 ウ - リボソーム エ - アミノ酸 オ - 水素

第41問 タンパク質の合成(メガ詳しい)

次のタンパク質合成に関する次の文章中の空欄(ア～ソ)に適語を入れよ。なお必要であれば下の表を用いよ。

核内においてDNAの(ア)を鋳型として(イ)されてできたmRNAは(ウ)をとって細胞質に出る。細胞質でmRNAはリボソームと結合するが、このときリボソームの(エ)が塩基(オ)個分と結合する。ここに2つのtRNAがそれぞれアミノ酸を運び、それら2つのアミノ酸はリボソームの(カ)で(キ)する。以下に翻訳の過程を示す。



このように遺伝子には、「DNAセンス鎖の(シ)塩基で1つのアミノ酸を指定する」ことが繰り返されることで「20種類のアミノ酸をいくつどういう順に結合させていくか」が書かれているのである。なお、DNAセンス鎖の(シ)塩基を(ス)というが、mRNAの(ス)を特に(セ)、tRNAの(ス)を(ソ)という。

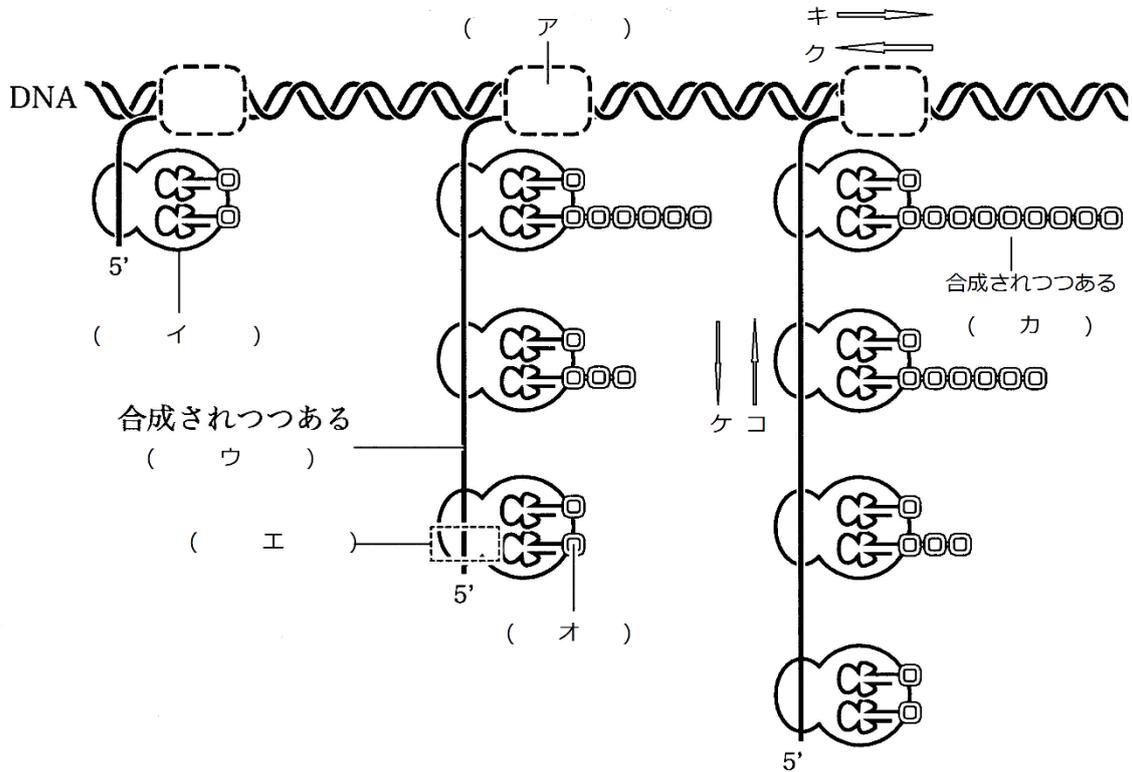
		第 2 塩 基							
		U	C	A	G				
第 1 塩 基	U	UUU } フェニル UUC } アラニン UUA } ロイシン UUG }	UCU } UCC } セリン UCA } UCG }	UAU } チロシン UAC } UAA } *ナンセンス(終止) UAG }	UGU } システイン UGC } UGA } *ナンセンス(終止) UGG } トリプトファン	U	C	A	G
	C	CUU } CUC } ロイシン CUA } CUG }	CCU } CCC } プロリン CCA } CCG }	CAU } ヒスチジン CAC } CAA } グルタミン CAG }	CGU } CGC } アルギニン CGA } CGG }	U	C	A	G
	A	AUU } AUC } イソロイシン AUA } AUG } メチオニン(開始)	ACU } ACC } トレオニン ACA } ACG }	AAU } アスパラギン AAC } AAA } リシン AAG }	AGU } セリン AGC } AGA } アルギニン AGG }	U	C	A	G
	G	GUU } GUC } バリン GUA } GUG }	GCU } GCC } アラニン GCA } GCG }	GAU } アスパラギン酸 GAC } GAA } グルタミン酸 GAG }	GGU } GGC } グリシン GGA } GGG }	U	C	A	G

【解答】第41問 タンパク質の合成(メガ詳しい)

ア - アンチセンス鎖 イ - 転写 ウ - 核膜孔 エ - 小サブユニット オ - 6
カ - 大サブユニット キ - ペプチド結合 ク - アラニン
ケ - AGA・AGG・AGU・AGC・UCA・UCG コ - アラニン サ - セリン
シ - 3 ス - トリプレット(= 3つ組塩基) セ - コドン(=)遺伝暗号
ソ - アンチコドン

第42問 原核のタンパク質合成

次の図は原核生物のタンパク質合成の様子を表したものである。これに関する下の各問いに答えよ。



問1 上の図中の構造ア・イの名称をそれぞれ答えよ。またア・イのそれぞれは図中のキ・ク、ケ・コのどちらに進んでいくか答えよ。

問2 図中のエは多くの場合、ウという物質の最初に存在するある種の暗号である。この部分を何というか。

問3 上の図中のウ・オ・カの物質の名称を答えよ。

【解答】第42問 原核のタンパク質合成

問1

ア - RNAポリメラーゼ イ - リボソーム

アが進む方向 - キ

イが進む方向 - コ

問2

エ - 開始コドン

問3

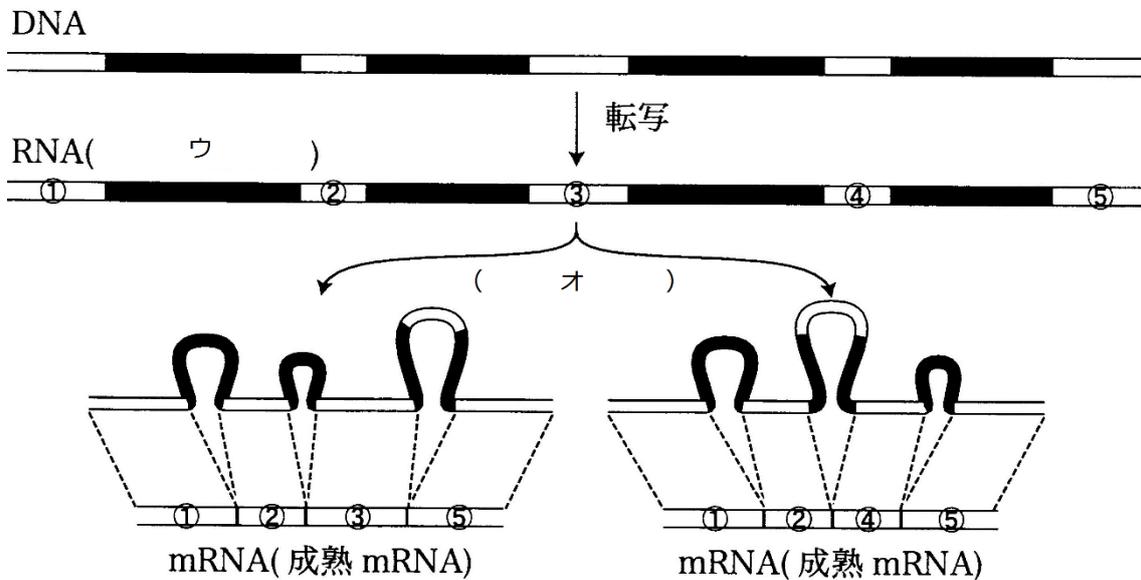
ウ - mRNA

オ - アミノ酸 カ - タンパク質(ポリペプチド)

第43問 真核のタンパク質合成

問 真核生物の転写に関する次の文章中の空欄(ア～オ)に適する語句を入れよ。

真核生物の遺伝子は(ア)と(イ)と呼ばれる部分からなっている。(ア)はタンパク質に翻訳されない部分であり、(イ)はアミノ酸をコードしており、タンパク質に翻訳される部分である。このような遺伝子が転写されると(ウ)ができるが、これにも(ア)の部分が含まれてしまう。そこで(ア)を切り取る作業がおこなわれるがこれを(エ)といい、これによってmRNAが完成する。下の図はこの(エ)の様子を表したものである。この図によると(イ)には①～⑤があり、これらがさまざまに組み合わせられてmRNAが完成していることがわかる。このように実際には1つの遺伝子から複数種のmRNAが作られており、これを特に(オ)という。



【解答】第43問 真核のタンパク質合成

ア - イントロン イ - エキソン ウ - mRNA前駆体
エ - スプライシング オ - 選択的スプライシング

第44問 塩基配列の変化 1学期

問1 次の文章中の空欄(ア～ケ)に適する語句を入れよ。

DNAの塩基配列が変化することを(ア)という。これには、塩基配列の一部が他の塩基配列に置き換わってしまう(イ)、新たな塩基が入り込んでしまう(ウ)、逆に塩基が失われる(エ)がある。(イ)には、アミノ酸が変化しない(オ)、アミノ酸が変化する(カ)、そして、(キ)が生じて、ポリペプチドが(ク)くなってしまう場合がある。

一方、(ウ)・(エ)の場合、3塩基の読み枠がずれてしまう(ケ)が起こる。すると、(ウ)・(エ)が起こった以降のアミノ酸配列が大きく変化してしまうだけでなく、以降のどこかに(キ)が生じてポリペプチドが(ク)になってしまう場合もある。

問2 次の文章中の空欄(ア～ク)に適する語句・数値を入れよ。

赤血球中のヘモグロビンは、(ア)個のサブユニットからなる(イ)構造をしている。(ア)個のうち、(ウ)個は α 鎖、残りの(エ)個は β 鎖と呼ばれる。 β 鎖の遺伝子のある部分がGAGであるのに対して、(オ)によってGTGになってしまうことがある。すると、この部分が指定するアミノ酸は、本来はグルタミン酸であるのに、バリンに変化してしまう。つまり、(カ)が起こる。

ここで、GAGである遺伝子をS、GTGである遺伝子をsとする。遺伝子型がSSの場合には正常であるが、マラリア原虫が赤血球に侵入してマラリアを発症する。遺伝子型がssの場合、マラリアにはかからないが、赤血球が変形し(キ)を引き起こすため、生殖年齢に達する前に死亡する。Ssの場合、1気圧のもとでは正常であるが、高山地帯などの気圧が低い場所へ行くと、貧血となる。しかし、マラリアはかかりにくい。つまり、遺伝子(ク)は、「ケ」という点では不利な遺伝子であるが、「コ」に対しては有利な遺伝子であるため、マラリア流行地域では、遺伝子(ク)を持つ人が一定の割合で存在し続けることになる。

問3 DNAの塩基配列が変化してしまう(遺伝子突然変異)原因となるものを、3つ挙げよ。

【解答】第44問 塩基配列の変化 1学期

問1

ア-遺伝子突然変異 イ-置換 ウ-挿入 エ-欠失 オ-同義置換 カ-非同義置換
キ-終止コドン ク-短 ケ-フレームシフト

問2

ア-4 イ-四次 ウ-2 エ-2 オ-置換 カ-非同義置換
キ-鎌状赤血球貧血症 コ-s ク-貧血(←こういう意味のことが書いてあればOK)
ケ-マラリア

問3

複製ミス・放射線・化学物質(ブロモウラシル)

第45問 遺伝子発現の調節 1学期

問1 次の文章中の空欄(ア～コ)に適する語句を入れよ。

遺伝子には、常に発現しているものと、その発現が調節されているものがある。前者を(ア)的発現、後者を(イ)的発現という。また、常に発現している遺伝子を(ウ)遺伝子といい、(エ)酵素など、細胞の生存に必要な遺伝子がそれである。

遺伝子の発現調節には、(オ)の調節・(カ)の調節・(キ)の調節があり、(オ)の調節は(ク)とも呼ばれる。また、(カ)の調節は、ラクトースオペロンなどがそうである。また、(キ)の調節は、(ケ)するかどうか、つまりリボソームによって(コ)を合成するかどうかという調節である。また、選択的スプライシングも、この(キ)の調節に含まれる。

問2 次の文章中の空欄(ア～コ)に適する語句を入れよ。

① DNAは、タンパク質である(ア)に巻きついており、この構造を(イ)という。ところで、(ア)に(ウ)が結合すると、(イ)が密に集合する(=(エ)が密に折りたたまれる)ために、(オ)が行われにくくなる。つまり、遺伝子の発現が(カ)される。逆に、(ア)に(キ)が結合すると、(エ)の折り畳みが緩むため、(オ)されやすくなる。つまり、遺伝子の発現が(ク)される。

② DNAに(ケ)が結合すると、(オ)に必要なタンパク質が結合できなくなるため、遺伝子発現が(カ)される。これら①・②のような遺伝子発現の調節を(コ)という。

【解答】第45問 遺伝子発現の調節 1学期

問1

ア - 構成 イ - 調節 ウ - ハウスキーピング エ - ATP合成 オ - 転写前
カ - 転写 キ - 転写後 ク - エピジェネティック制御 ケ - 翻訳 コ - タンパク質

問2

ア - ヒストン イ -ヌクレオソーム ウ - メチル基 エ - クロマチン繊維 オ - 転写
カ - 抑制 キ - アセチル基 ク - 促進 ケ - メチル基 コ - エピジェネティック制御